

北海道認知症介護実践リーダー研修 シラバス

科目名	認知症介護実践リーダー研修の理解	研修形態と講義時間：講義・演習（90分）
目的	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーの役割とこの研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。実践リーダーとしての自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践リーダーの役割と研修科目との関連性を踏まえて研修の概要を把握する。 2. 実践リーダーとしての課題を認識し、研修における学習目標を明確化できる。 	
概要	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーに求められる役割を知り、研修科目の必要性や研修全体の目的など研修概要を把握する。また、実践リーダーとしての自己課題を確認し、研修の受講動機を高め、学習目標を明確にする。	
内 容		備 考
1. 実践リーダーの役割	<ol style="list-style-type: none"> 1) チーム構築における実践リーダーの役割 2) 職場における指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症ケアを推進するための実践リーダーの役割のポイントを知る。
2. 実践リーダー研修の概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 研修の目的 2) 研修の到達目標 3) カリキュラム全体の構成 4) カリキュラム別のねらいと概要 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践リーダー研修のねらいや科目のねらいと内容を理解する。 ・実習課題設定の内容と流れを理解する。
3. 実践リーダーとしての課題の明確化	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実践リーダーとしての課題の明確化 2) 研修における学習目標の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の課題、学習目標を文章化する。 ・実践リーダーとしての強み・弱みを理解する。

科目名	認知症の専門的理解	研修形態と講義時間：講義・演習（120分）
目的	一人の「人」としての理解を踏まえつつ、行動の背景の一つである認知症の病態を理解し、ケアができるよう、最新かつ専門的な知識を得る。	
到達目標	1. 一人の「人」として理解したうえで、認知症の病態や治療に関する専門的な知識を理解する。 2. 原因疾患別の病態や経過の捉え方を理解する。 3. 認知症の人をとりまく社会的な課題に関する最新の知識を理解する。	
概要	認知症に関する研究は年々進展している。認知症におけるチームケアの促進や介護職員等の指導を担う実践リーダーは最新の知識を有し、同時に認知症に関する専門的な知識を活用したケアの実践、介護職員等の指導、チームケアの向上が求められている。本科目は、認知症ケアにおける実践リーダーに必要な認知症に関する最新の知識の修得や専門性の向上を目的とし、認知症の病態や治療、社会的課題等に関する専門知識を学習する。	
内 容		備 考
1. 認知症に関する理解	1) 認知症の原因疾患と病態や経過の捉え方、診断基準など 2) 疾患別の中核症状と行動・心理症状（BPSD） 3) 認知症に起きやすい合併症 4) 若年性認知症の特徴	・実践者研修で学んだ知識に最新の情報を加えて発展させる。 ・脳の解剖生理学的な視点から生活障害を理解する。
2. 原因疾患別の捉え方のポイント	1) 認知症の原因疾患別の特徴 2) 生活障害としての理解	
3. 医学的視点に基づいた介入	1) 認知症治療薬 2) 行動・心理症状（BPSD）に用いられることがある薬物の主な作用機序と副作用、使用方法 3) その他の介入法（食事・運動や他疾患との関係等）	・かかりつけ医のための BPSD に対応する向精神薬使用ガイドライン（第2版）（2015年度厚生労働科学特別研究事業）を参考にする。
4. 認知症を取りまく社会的課題	1) 認知症の人の意思決定支援 2) 認知症の告知とその支援 3) 認知症の人のターミナルケア 4) 若年性認知症の人の社会生活と就労 5) 本人の社会活動支援	・厚生労働省「認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドライン」を用いる。

科目名	施策の動向と地域展開	研修形態と講義時間：講義・演習（210分）
目的	認知症施策の変遷と最新の動向を理解する。地域における認知症施策の展開例を知り、地域包括ケアシステムの構築に必要な関係機関との連携・参画できる知識を修得する。	
到達目標	1. 認知症施策の変遷を理解し、説明できる。 2. 認知症ケアに関連する最新の施策の動向を理解し、説明できる。 3. 認知症施策の具体的な展開方法を理解する。	
概要	昨今、認知症に関連する制度の整備は進んできており、特に、実践リーダーは地域包括ケアシステムの展開例を知り、介護職員等に説明、指導できる事が必要である。本科目は、認知症施策の変遷と最新の動向や地域における施策の展開例を知り、周辺地域における地域包括ケアシステムの構築や関係機関との連携体制の構築に参画できるための知識の修得を目指す。	
内 容		備 考
1. 認知症施策の変遷	1) 認知症施策の歴史 2) 認知症の人やその家族の視点を踏まえた施策	
2. 認知症施策の動向と認知症施策推進大綱の内容	1) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）から認知症施策推進大綱に至る施策動向 2) 認知症施策推進大綱の策定とその内容 3) 認知症施策推進大綱と地域包括ケアシステム、地域共生社会の構築 4) 認知症施策上の実践リーダー研修の位置づけ・意義	・地域包括支援センター職員や認知症地域支援推進員等を招き、施策の動向について当該地域における実践例を知り、実践リーダーの役割を理解する。 ・認知症加算・認知症専門ケア加算等の解説を含む。
3. 地域における認知症ケア関連施策の展開	1) 認知症ケアの実践と施策の関係 2) 地域の認知症施策の把握 3) 地域における認知症施策の展開方法 4) 地域における実践リーダーの役割	・認知症施策推進大綱の項目に沿って、実践リーダーとして地域で何ができるか演習等を通して理解する。

科目名	チームケアを構築するリーダーの役割	研修形態と講義時間：講義・演習（180分）
目的	チームの構築や活性化のため、チームリーダーとしての役割を理解し、円滑にチームを運用する者であることを自覚する。次に、チームにおける目標や方針の設定の必要性を理解し、目標をふまえた実践の重要性と展開方法を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームの意味や目的、種類を理解しチームの特徴を説明できる。 2. チームの構築や活性化のための基本的な考え方や方法を説明できる。 3. チームの方針や目標を設定する必要性や、目標をふまえた実践の展開の重要性を理解する。 	
概要	チームによる認知症ケアの向上において、実践リーダーはチーム構築や活性化を促進するチームビルダーとしての役割が期待されている。本科目ではチームの目標や方針の共有と実践への展開、介護職員等のストレスマネジメント、情報共有のためのカンファレンス等の実施、チームメンバーの編成、介護職員等への動機づけ、教育や指導に関する基本的な考え方や方法について学習し、実践リーダーとしてチームを円滑に運用する方法を理解する。	
内 容		備 考
1. チームの意味や目的、種類	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームに必要な条件 2) チームの形成過程（演習） 3) 対人援助チームの特徴 	・チームワーク演習を通してチームを活性化する条件や要素、方法を体験的に理解する。
2. チームの構築及び活性化するための運用方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) チームの目標や方針の設定と実践への展開 2) メンバー選定や編成方法 3) コミュニケーション支援 4) 動機づけ 5) ストレスマネジメント 6) ミーティング 7) 教育指導 	・チーム活性化のための方法を理解することのみにとどまらず、チーム作りを行う役割の自覚を促進する。
3. チームの目標や方針の設定と展開方法	チームにおける目標や方針の設定（共有・展開・評価）方法	・チームの目標や方針の設定と実践への展開では、目標や方針の必要性を確認し、共有・展開の方法を学び、実践の振り返りを行う。 ・チームにおける目標や方針の設定方法を学び、実践に活かす方法を体験的に学ぶ。

科目名	ストレスマネジメントの理論と方法	研修形態と講義時間：講義・演習（120分）
目的	チームケアを円滑に運用するため、ストレスの仕組みと対処法を理解した上で、実践リーダーとして介護職員等のストレスの緩和やメンタルヘルスのマネジメントを実践することができる。	
到達目標	1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性を理解する。 2. ストレスのしくみと対処法を理解する。 3. 認知症ケアにおけるストレスと対処法を理解する。 4. 組織のメンタルヘルス対策や実践リーダーが果たすべき役割を理解し、チームメンバーへの支援方法を理解する。	
概要	チームを活性化するためにはメンバー個々のストレス評価を行い、ストレス度や原因に応じたストレス緩和を実行することが必要である。本科目では、ストレス概念やストレス理論を理解した上で、実践リーダーとしてチームメンバーのストレスを緩和する方法論や実践方法を学習する。	
内 容		備 考
1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性	1) チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性 2) ストレスの考え方 3) 認知症ケアのストレスの考え方 4) 認知症ケアにおけるストレスマネジメントの意義と必要性	・ストレスマネジメントに関する理論を踏まえて、認知症ケアにおけるストレスマネジメントの意義と必要性を理解する。 ・ストレスの考え方は、肯定的側面についても取り上げる。
2. ストレスマネジメントの方法	1) セルフケアの方法 2) 組織によるストレスマネジメントの方法 3) 環境の調整方法	・認知症ケアにおける具体的なストレスマネジメントの方法を学ぶ。 ・ストレス理論を踏まえて、実際のストレスマネジメントの方法を演習を通して体験的に理解する。

科目名	ケアカンファレンスの技法と実践	研修形態と講義時間：講義・演習（120分）
目的	チームケアの質の向上を図るため、ケアカンファレンスの効果的な展開方法を身につけ、チームにおける意思決定プロセスの共有を実現できる。	
到達目標	1. チームケアの質の向上を目的としたケアカンファレンスの目的や意義、必要性を理解する。 2. チームにおける意思決定プロセスの共有化を図る方法としてのケアカンファレンスのあり方を理解し実践できる。 3. チームメンバーのケアを導く思考過程を振り返り、職場において効果的な実践を促すためのケアカンファレンスが展開できる。	
概要	チームケアを実現するためには、利用者のニーズに基づき導かれたケアの目的や目標に沿って決定したケアの方法について、その決定プロセスをチームメンバー間で共有することが必須である。ケアの決定プロセスなどを共有する方法の一つがケアカンファレンスであり、チーム内のコミュニケーション手段の一つでもある。本科目では、ケアカンファレンスに必要な知識や技術を学習する。	
内 容		備 考
1. チームケアにおけるケアカンファレンスの目的と意義	1) ケアカンファレンスの目的や意義 2) チームケアにおけるケアの決定過程と共有化	・模擬ケアカンファレンスにて実際に進行役、スーパーバイザー役等を体験しながら体験的に理解したうえで、効果的なケアカンファレンスについて振り返りを行う。
2. ケアカンファレンスを円滑に行うためのコミュニケーション	1) 報告・連絡・相談の違い 2) 建設的なコミュニケーションのポイント	
3. 効果的なケアカンファレンスの展開	1) 事前周知（告知、開催目的の明確化、検討内容の通知、資料配布と議事録） 2) ケアカンファレンスの役割分担（進行、スーパーバイザー、参加メンバー） 3) 効果的な議論を促すためのポイント	

科目名	認知症ケアにおけるチームアプローチの理論と方法		研修形態と講義時間：講義・演習（180分）
目的	多職種・同職種間での適切な役割分担や連携にあたって、認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、実践するための指導力を身につける。		
到達目標	1. 認知症ケアにおけるチームケアの意義と必要性を理解する。 2. 認知症ケアにおけるチームの種類と特徴を理解する。 3. 認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解する。		
概要	認知症ケアにおけるチームアプローチへの展開方法を理解する。ケアチームにおけるケアカンファレンス、目標や情報の共有、多職種・同職種の役割分担と連携等について施設入居事例、在宅事例などの実践事例を踏まえ認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、受講者がこれまで学習した内容をチームアプローチにおいて実践するために必要となる指導能力を高めることを目指す。		
内 容		備 考	
1. 認知症ケアにおけるチームアプローチの意義と必要性（まとめ）	1) チームアプローチの理解 2) チームアプローチとチームケア 3) チームケアの意義 4) 認知症ケアにおけるチームケア	・「チームケアを構築するリーダーの役割」で学習したチームの構築及び活性化するための運用方法等をまとめる。	
2. 認知症ケアにおけるチームの種類と特徴	1) チームアプローチの形態 2) 多職種によるチームアプローチの役割と連携 3) チームアプローチにおける管理 4) 認知症ケアへの有効性と留意点		
3. 施設・在宅での認知症ケアにおけるチームアプローチの方法	1) 施設・在宅サービスにおける効果的なチームアプローチの活用方法 2) 関係機関へのチームアプローチ	・施設・在宅におけるチームケアの実践事例に基づき、ここまで学習したチームアプローチに関する理論や方法を実際の認知症ケアにおいて活用する方法を学ぶ。加えて、活用する際に必要となる指導能力を高めるような内容を含む。	

科目名	職場内教育の基本視点	研修形態と講義時間：講義・演習（240分）
目的	認知症ケアを指導する立場として、指導に関する考え方や基本的態度を学び、認知症ケアの理念を踏まえた指導に必要な視点を理解し、職場内教育の種類、特徴を踏まえた実際の方法を修得する。	
到達目標	1. 人材育成における介護職員等のとらえ方を理解する。 2. 職場内教育を行う指導者のあり方を理解する。 3. チームマネジメントにおける人材育成の意義と方法を理解する。 4. 職場内教育（OJT）の方法を理解する。	
概要	本科目では、認知症ケアの指導に関する考え方や指導上の留意点など基本的態度を学び、認知症ケアの理念を踏まえた指導理念や指導視点を学ぶことを目指す。また、職場における介護職員等への指導計画立案を通して職場内教育の運用方法について学習する。	
内 容		備 考
1. 人材育成における介護職員等のとらえ方	1) 人材育成における介護職員等のとらえ方 2) 介護職員等への指導の目標と留意点 3) 介護職員等に指導する態度、知識、技術	・OJTに限らない、職場内教育についても学習する。 ・人材育成の事例について評価方法、指導目標設定、指導方法等の職場内教育（OJT）の計画立案の方法を演習を通して理解する。 ・認知症ケアの指導に限定しない職場内教育（OJT）の計画立案の過程について体験的に理解する。
2. 指導者のあり方の理解	1) 実践リーダーに求められる基本的態度の理解 2) 介護職員等の指導における理念の理解	
3. 人材育成の意義と方法	1) 人材育成の意義と目的 2) 人材育成の方法の種類と特徴 3) 課題に応じた人材育成の方法と効果	
4. 職場内教育の意義	1) 職場内教育（OJT）の有効性 2) Off-JT、自己啓発（SDS）の限界と職場内教育（OJT）の効用 3) 指導に必要な職場内教育（OJT）の技術	
5. 職場内教育（OJT）の実践方法	1) 職場内教育（OJT）のための介護職員等の評価方法 2) 人材育成の課題設定 3) 受講者による育成目標の設定 4) 人材育成の課題に応じた指導計画	

科目名	職場内教育（OJT）の方法の理解	研修形態と講義時間：講義・演習（240分）
目的	介護職員等への指導に有効な技法の種類と特徴を理解し、職場で実践できる指導技術の基本を修得する。	
到達目標	1. 職場内教育（OJT）における有効な指導技法の種類と実際の方法を理解する。 2. 認知症ケアの指導への活用と留意点を理解する。	
概要	介護職員等の技術向上は、スーパービジョンや個別指導等の職場内の指導による教育が有効であり、実践リーダーには職場内教育（OJT）を実践しチームケアの質の向上を達成する役割が期待されている。本科目は、人材育成の方法における職場内教育（OJT）の技法を理解し、認知症ケアの指導技術の修得を目指す。	
内 容		備 考
1. 職場内教育（OJT）における指導技法	1) スーパービジョンの理論と技法の理解 2) 面接技法の理解 3) ティーチングの理論と技法の理解 4) コーチングの理論と技法の理解 5) 職場内教育（OJT）において指導技法を活用する際の留意点	・演習を通して実際の技法を体験し、基本的な技術を修得する。 ・演習は、倫理、権利擁護、家族介護者支援、介護技術等の指導例を基に具体的に解説する。
2. 指導における活用と留意点	1) ティーチング・コーチング・面接技法の統合 2) 指導における倫理的配慮	

科目名	職場内教育（OJT）の実践	研修形態と講義時間：講義・演習（360分）
目的	これまでに学習した認知症ケアに関する指導技術について、食事・入浴・排泄等の介護、行動・心理症状（BPSD）、アセスメントとケアの実践などの具体的場面において、どのように活用していけば良いか、演習を通じて体験的に理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 食事・入浴・排泄等への介護に対する指導の演習を通じ、介護職員等を指導するための指導計画の立案のあり方を理解する。 2. 行動・心理症状（BPSD）への介護に対する指導方法を理解する。 3. アセスメント及びケアの実践計画立案に関する指導を実践できる。 4. 介護職員等に対する自己の指導の特徴を理解する。 	
概要	認知症の人の能力に応じた自立支援による生活の質の向上を目指し、介護職員等を現場で指導するにあたり、必要となる介護職員等の力量の評価、個別課題の明確化と指導目標の設定、及び指導計画の立案、並びに介護技術に関する指導方法、その結果・成果の評価について事例演習によって体験的に学習し、実践的な指導力を高めることを目指す。また、自己の指導の特徴と今後学習を進める課題を明らかにすることを旨とする。	
内 容		備 考
1. 食事・入浴・排泄等への介護に関する指導計画（事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 食事・入浴・排泄等への介護に関する介護職員等の力量とその評価 2) 食事・入浴・排泄等への介護に関する介護職員等の個別課題の明確化と指導目標の設定 3) 食事・入浴・排泄等への介護技術に関する指導計画の立案 	<p>・倫理的ジレンマ、権利擁護、家族介護者支援、リスクマネジメント等他の知識・技術・態度の指導の際にも応用できることに触れる。</p>
2. 行動・心理症状（BPSD）への介護に関する指導（事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) 行動・心理症状（BPSD）への介護に関する介護職員等の力量評価と個別課題の明確化 2) 行動・心理症状（BPSD）への介護技術に関する介護職員等の指導目標の設定と指導計画の立案 3) 行動・心理症状（BPSD）への介護技術に関する指導方法 	
3. アセスメント及びケアの実践に関する計画立案の指導方法（事例演習）	<ol style="list-style-type: none"> 1) アセスメント及びケアの実践に関する介護職員等の力量評価と個別課題の明確化 2) アセスメント及びケアの実践に関する介護職員等の指導目標の設定と指導計画の立案 3) アセスメント及びケアの実践に関する指導方法と指導成果の評価 	
4. 自己の指導の特徴の振り返り	<ol style="list-style-type: none"> 1) 演習全体を通じた学びの振り返り 2) 自己の指導の特徴と課題の共有 	

科目名	自施設及び他施設実習の課題設定	研修形態と講義時間：講義・演習（240分）
目的	研修で学んだ内容を生かして、職場の介護職員等の認知症ケアの能力の評価方法を理解する。	
到達目標	1. 介護職員等の認知症ケアの能力に関する評価方法を立案できる。 2. 講義、演習で学んだ内容を生かし、認知症ケアの指導に関する実習計画を立案できる。 3. 他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案に向けて、他施設実習で学びたい課題を設定することができる。	
概要	講義、演習で学んだ内容を生かし、自施設における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育、指導を実践し、認知症ケアに関する指導方法の実際を体験的に理解するため、本科目では介護職員等の認知症ケアの能力を評価する方法を立案することを目指す。 また、他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めるための課題を設定する。	
	内 容	備 考
1. 介護職員等の認知症ケアの能力に関する評価方法の理解	1) 介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術に関する現状分析の方法 2) 指導対象となる介護職員等の選定 3) 介護職員等の認知症ケアの能力の評価方法立案の過程 4) 実習計画作成の過程	・この研修の学習内容を介護職員等の評価に活用する方法を学ぶ。 ・実習のタイムスケジュールを作成し、実習の目標と流れを理解する。 ・利用者の視点に立つことを常に心掛けながら展開。
2. 介護職員等の認知症ケアの能力の評価方法の立案	1) 基本的知識への評価方法の立案 2) ケア目標への評価方法立案 3) アセスメント方法への評価方法の立案 4) ケア方法への評価方法の立案 5) ケア評価に関する評価方法の立案	
3. 実習計画の立案	1) 実習目標 2) 実習計画 3) 実習中の資料作成	
4. 他施設実習での課題立案	実践者に係る評価方法や実習計画の立案に向けて、他施設実習で学びたい課題を設定する。	

科目名	自施設実習	研修形態と講義時間：実習（4週間）
目的	研修で学んだ内容を生かして、自施設の介護職員等の認知症ケアの能力の評価、課題の設定・合意、指導目標の設定や指導計画を作成し、指導計画に基づいた認知症ケアを指導する。	
到達目標	1. 介護職員等の認知症ケアの能力を評価し、課題を設定・合意できる。 2. 介護職員等の認知症ケアにおける指導目標を立案できる。 3. 指導目標に応じた指導計画を作成できる。 4. 講義、演習で学んだ指導方法を職場で実際に活用できる。	
概要	講義、演習で学んだ内容を生かして、自施設における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育、指導方法の実際を理解するため、本科目では実習に協力する介護職員等の認知症ケア上の課題に応じた指導計画の作成を体験的に理解し、職場内での指導方法の理解を深めることを目指す。	
内 容		備 考
1. 認知症ケア能力の評価と課題の設定・合意	1) 介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の評価 2) 実習に協力する介護職員等の認知症ケア上の課題案の設定・合意	・ 1－1) 評価に基づき、課題案の設定・合意を行う。
2. 指導目標の立案方法の理解	認知症ケアの課題に応じた指導目標の立案	
3. 指導目標に応じた指導計画の作成	指導目標に応じた指導視点や方法に関する指導計画の作成	
4. 指導計画に応じた指導の実施	1) 指導計画に応じた基本的知識に関する指導の実践 2) 指導計画に応じたケア目標やアセスメント方法への指導の実践	・ 作成した指導計画を基にした指導は、任意とする。ただし、作成した指導計画を協力する介護職員等と共有し、その結果をもとに職場内での指導における自己の課題を検討する取り組みは必ず実施する。

科目名	他施設実習	研修形態と講義時間：実習（2日間）
目的	他の介護保険事業所（以下、「他施設」という。）への2日間の現場実習を通して、自己の設定した課題の達成を目指し、その成果を得ること。	
到達目標	1. 他施設の特徴や地域における役割を学ぶことができる。 2. 他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めることができる。 3. 他施設の認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者とネットワークを構築することができる。	
概要	他施設の現場実習を通じて、認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者から、他施設の特徴や地域における役割を学ぶとともに、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めることができる。	
内 容		備 考
1. 実習の準備	他施設実習において、学びたい課題について説明する。	・他施設実習担当者は受講生が設定した課題について、可能な限り実習の中で行うことができるように配慮する。
2. 他施設実習先の概要説明	実習施設の概要の説明を聞く。 1) 実習施設の概要や特徴を学ぶ。 2) 実習施設の地域における役割を学ぶ。	・他施設実習担当者は、事業所の概要等を説明する。
3. 現場実習	実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法等について、自己が設定した課題を中心に実習する。	・認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者は、受講生の計画に沿った指導を行う。
4. 現場実習の記録	他施設実習の行動内容や学んだことを記録する。	
5. 現場実習の振り返り	他施設実習で学びを振り返り、認知症介護指導者から助言を得る。	

科目名	結果報告／自施設及び他施設実習評価	研修形態と講義時間：講義・演習（420分）
目的	自施設及び他施設実習を通して、認知症ケア指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとして指導の方向性を明確にできる。	
到達目標	1. 自施設及び他施設実習における学びを通し、認知症ケアの指導方法の課題やあり方について客観的・論理的に考察し、報告できる。 2. 介護職員等への認知症ケアの指導にかかる自己の課題を評価し、指導の方向性を明確にすることができる。	
概要	自施設及び他施設実習を踏まえ、実習報告への評価によって、職場における介護職員等の認知症ケアに関する態度、知識、技術の向上を目的とした教育指導方法の課題や今後の方向性を明確にすることを旨とする。	
内 容		備 考
1. 認知症ケア指導の実践方法に関する自己の課題の整理と考察	1) 結果報告と評価 2) 認知症ケア指導における課題分析 3) 認知症ケア指導における課題の明確化	
2. 認知症ケア指導に関する方向性の明確化	1) 認知症ケアに関する自己の指導の特徴と課題 2) 今後の認知症ケア指導における自己の学習目標と内容の明確化	

